



# レディ・ウェポン(赤裸特工)

2004(平成16)年12月25日鑑賞(ユウラク座)

監督=程小東<sup>チン・シウトン</sup> / 出演=マギー・Q<sup>マギー</sup> / 安雅<sup>アン・ヤ</sup> / 吳彦祖<sup>ウー・ヤンツ</sup> / 黄佩霞<sup>ワウ・ペイシャ</sup> / 連 凱<sup>リョン・カイ</sup> / 鄭佩佩<sup>チン・ペイペイ</sup> / 李幸芷<sup>リィ・シウチ</sup> (アートポート配給 / 2002年香港映画 / 92分)

……原題は『赤裸特工』。香港のセクシー活劇『赤裸シリーズ』の最新作だ。『HERO』(02年)、『LOVERS』(04年)のアクション監督を務めた程小東<sup>チン・シウトン</sup>監督が有名になったため、日本でも公開されたものか……？ 私は強くて美しい美女軍団の大活劇は大好き！ そのうえこの映画は、切ない女同士の友情あり、刑事との恋愛ありと盛り沢山で、ついホロリとする場面も……。私にはハリウッド映画の『チャーリーズ・エンジェル』以上の出来だと思えたが……？

## 🎬 今なぜ日本でこの映画が……？

『レディ・ウェポン』というタイトルだけでは、どこの映画か、また何の映画かサッパリわからない。しかし原題の『赤裸特工』、そして監督は程小東<sup>チン・シウトン</sup>とくれば香港映画であることがわかる。張 藝 謀<sup>チン・イーモウ</sup>監督の大ヒット作『HERO』(02年)、『LOVERS』(04年)のアクション監督を務めた程小東<sup>チン・シウトン</sup>が日本でも有名になったために、2002年に香港で公開されたこの『赤裸シリーズ』最新作が日本でも公開されたいが……？

## 🎬 『赤裸シリーズ』とは？

パンフレットには「香港女性活劇の濃縮汁をイッキ飲み！」と題した中野貴雄氏の解説がある。それによると、『赤裸シリーズ』は1992年、香港の石井輝男ことバリー・ウォンが製作した『赤裸羔羊 / ポイズン・ガールズ あぶないカ・ラ・ダ』が始まりとのこと。中野氏は、「秘宝系香港映画マニア」と自称するだけあって、この

『赤裸シリーズ』には造詣が深く、ここでの詳しい解説は面白くかつ大いに参考になる。

## 『チャーリーズ・エンジェル』シリーズとどちらが好き？

スーパーヒロインの活劇映画は、アンジェリーナ・ジョリーの『トゥームレイダー』(01年)や『チャーリーズ・エンジェル』(00年)などハリウッドにもたくさんある。

私が観た『チャーリーズ・エンジェル フルスロットル』(03年)では、キャメロン・ディアス、ドリュー・バリモアや敵役のデミ・ムーアと並んで中国系の美女であるルーシー・リューが第1作に続いて大活躍していた。つまり、ジャッキー・チェンは今や別格としても、中国系(香港系)アクションは今やハリウッド活劇においてもなくてはならないものになっているわけだ。

『チャーリーズ・エンジェル』シリーズは、ハリウッド活劇らしくあくまで陽気。そしてアメリカは絶対的に強いということが大前提になっているから、この美女軍団は不滅。だから、どんな危険が迫っても必ずこれを切り抜けることになり、観客はそのスリルを楽しめばいいわけだ。

しかし、この『レディ・ウェポン』はそうではない。まずスーパーヒロインとなる美女たちの生い立ちからして、13歳の時に誘拐されて孤島に連れてこられたうえ、そこで6年間の厳しい格闘技の訓練を受けるという悲しいもの。そして6年間の訓練の中、生き残りを賭けて争う女性たちの間には対立=憎しみだけでなく女同士の友情も……。

さらに、女テロリストとして実践配置された後には、主人公シャーリーン(マギー・Q)とこれを追うCIA捜査官ジャック(ダニエル・ウー 吳彦祖)との間に淡い恋も生まれ……。

ハッピーエンドにならないことが予測されるだけに、これらの友情と恋愛のスパイスがよく効いている。だから私は、楽しいばかりの活劇である『チャーリーズ・エンジェル』シリーズよりもこの『赤裸シリーズ』の方が好き！

もっとも、あなたが「ハリウッド女優」というブランド志向だとしたら、異論ありかも？

## 日本版では志穂美悦子

日本でかつて有名だった復讐劇は、『女囚701号 さそり』（72年）に始まった梶芽衣子主演のシリーズだが、これははもともと少しバージョンが異なるもの。日本版の女性アクションものといえば、何といても、かつて私が大好きだった志穂美悦子が主演した『女必殺拳』（74年）のシリーズ。千葉真一が主催するJACでは、今や真田広之が大俳優に成長したが、志穂美悦子もかつてはその看板女優。あの『女必殺拳』での彼女のアクションは実にカッコよかった。

## 魅力的な2人の美女

この映画の主人公シャーリーンを演ずるのはマギー・Qという正統派(?)美女。これに対してシャーリーンの親友キャットを演ずるのは可愛い系(?)美女の<sup>アンヤ</sup>安雅。この『赤裸シリーズ』自体がメジャーではなく、どちらかというとB級映画にランクされている(?)からかもしれないが、このマギー・Qも<sup>アンヤ</sup>安雅もその名前は日本では全然知られていない女優。

<sup>チャン・イーモウ</sup>張藝謀監督が『初恋のきた道』で見だし、『HERO』や『LOVERS』で起用した<sup>チャン・ツイイー</sup>章子怡が今や世界的大スターになっていることと比べれば、その差は大きいが、その美貌やスタイルそして演技力においては決してそんなにひけをとるものではない。

2人ともすごく魅力的な美女だし、演技力も十分、そしてワイヤーを含むアクションも見事なもの。後述のジンは少々憎らしい役柄だが、このマギー・Qと<sup>アンヤ</sup>安雅という美女2人は最高！

## 『バトル・ロワイアル』と同じサバイバルゲームだが……

孤島で6年間の苛酷な訓練を受けた40名の少女のうち、生き残るのは1人だけ。これは、まるであの深作欣二監督の『バトル・ロワイアル』（00年）そっくりの想定だ。誘拐され今や大人の戦士となった美女軍団は、40名から20名に、そして20名からさらに1名に選抜されていくことに。そして、そのための文字どおり生死を賭けた闘いが展開されていく。この美女ばかりの集団による一連のアクションシーンは圧巻で、見ごたえ十分……。

シャーリーンとキャットは6年間ずっと親友として過ごしてきた仲だが、この2人

も最後には殺し合わなければならない運命。そして、この2人の強敵はジンジュエル・リー (李幸芷) だが、彼女は一匹狼で感情を持たない殺人マシーン。さあその闘いは、結局ジンの勝利に終わるのだろうか……？

## 黒幕の女ボスはマダム M !

13歳の少女たちを誘拐して、完璧な暗殺者に育てあげようとしているのはマダム M アルメン・ウォン (黄佩霞)。映画の冒頭せっかく育てあげた1人のテロリストが、すばらしい活躍を見せながらも、逃走中車を爆破されたため、マダム M はこれをやむなく射殺。その「後ガマ育て」が必要となったわけだが、1人のテロリストの育成は大変な作業。

こんな黒幕の女ボスをちょっと年配ながら、主役のシャーリーンを演ずるマギー・Q と同じモデル出身でテレビコマーシャルにも登場している美女黄佩霞アルメン・ウォンが演じている。冷酷非道なマダム M が「生き残るのは1人だけ」と宣言したにもかかわらず、ジンが最後の一太刀をあげようとした直前、マダム M はジンに対して「待った！」をかけた。その結果、公約破りとなるものの、3人を最終テストの合格者に。

そりゃ、6年も鍛えあげた挙げ句、39人を殺し、1人だけを残すのは少々もったいない……？

## テロリストの必要性……？

こういう映画が成り立つのは、全世界的に見れば、暗殺したいと願うターゲットがウヨウヨいるということだ。たとえばイラク戦争の引き金となったフセイン元大統領もしかり。2001年のニューヨークでの9・11テロを命令したといわれるオサマ・ビン・ラディンもしかりということだ。このマダム M のようなヤミの暗殺組織が存在し、シャーリーンのようなスーパーウーマンが現に存在しているならば、アメリカのブッシュ大統領もいくら報酬が高くてもそこに依頼していたはずだが……？

このマダム M は結構いい線をいく魅力的な女性だったが、最後は残念なことに無残な姿をさらすことに……。

## 女テロリストはつらいもの……？

前述のとおり、『チャーリーズ・エンジェル』は、危機一髪はあっても絶対負けることはないように設定されているからいいものの、「スパイもの」や「テロリストも

の」には当然危険がつきもの。そして、殺されればまだいいけれども、敵の手に落ちた時は、拷問その他の責め苦が待っているのが当然。

日本の「忍者もの」に女性を登場させて一躍人気を博したのが、山田風太郎原作の『くの一忍法』シリーズ。この原作や映画は当然、色気タップリとなり、ポルノ映画顔負けのシーンも多くなる。

要するに、女忍者や女スパイ、女テロリストを主人公に据えれば、男性のそれとは違う能力すなわち、「女の武器」をどう描くかがポイントとなる。この『赤裸シリーズ』ではその「女の武器」がどのように描かれているのだろうか？

「女の武器」を活用すれば、暗殺対象者となる男のベッドの中へ入りこむのは容易なこと。もちろんそこでのお勤め(?)は果たさなければならないが、ベッドの中で2人きりになれば、スーパーウーマンにとってその暗殺なんてチョロイもの……。

この映画でちょっと生々しかったのは、見事マダム M の最終テストに合格したシャーリーン、キャット、ジンの3名がしびれ薬の入ったワインを飲まされた挙げ句、「女の武器」を使うための実践訓練(?)を受けさせられるシーン。これを見ていると、所詮女は女であって弱いもの、そして女テロリストはつらいもの、とも思えたが……。

## 黒一点(?)の刑事はいい男？

シャーリーンを追う刑事ジャックは、6年前にマダム M が引きおこした暗殺事件に新米刑事として立ち会った男。それが今や立派に成長し分別のある刑事に……。

ところがこのジャックは、なぜかシャーリーンに対して淡い恋心を抱き始め、暗殺を執行した後冷凍車の中に逃げ込んだシャーリーンを追ってその車の中に入ると、この冷凍車の中で長時間2人で過ごすことに。そしてやっぱり男は甘い！ 冷凍車の中で凍りかけて、「寒い寒い」と連発するシャーリーンに対して、ジャックは上着をかけてやり、挙げ句の果てに「抱き合って暖まろう」などと甘い言葉を……。その結果、冷凍車がストップする直前に「あなたって本当にいい人ね！」と言いつつ頭をゴツン！ 気を失っているうちにシャーリーンは逃走してしまうことに……。

しかしそれでもジャックはシャーリーンのことを忘れられず、シャーリーンの母フェイチェンペイペイ(鄭佩佩)を助けようとしたジャックとシャーリーンはいつしか相思相愛の仲に……。そして……。海の波に洗われながら展開される2人の美しいベッドシーン

(?) はなかなかのもの……。

## 最後の対決は？

母のフェイを殺され、親友のキャットまで失ったシャーリーンが最後に対決するのはリュウイチ（連 <sup>アンドリュー・リン</sup> 凱）。彼は武道家だ。この対決は『HERO』『LOVERS』のアクション監督をつとめた程小東 <sup>チン・シウトン</sup> 監督の1つの見せ場。香港映画がいいのは、ここで変に飛び道具を使わないこと。

『マトリックス』のワイヤー・アクションも悪くはないが、ピストルの弾を避けるようなアクションが出てくると、私はどうしても「そんなバカな！」と思え、観ているのがイヤになってしまう。

しかしこの『赤裸特工』はそうではなく、あくまで「肉弾合戦」だから面白い。男女が平等な条件で闘えば、所詮男の方が強いはず。そして、その予想どおり展開はシャーリーンに不利となり、遂にリュウイチによって両目をつぶされてしまうことに。しかしここから最後の大反撃。すべてを集中してリュウイチに放った最後の必殺技は……？

2004(平成16)年12月27日記